

平成31年4月15日/毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

# 都医 NEWS

Vol. 638

平成31年度 事業計画の策定にあたり	01
底流/第291回(臨時)代議員会	
地区医師会長連絡協議会報告	02
平成30年度 東京都大学医師会連絡協議会	
第2期 東京在宅医療塾(第5回)	03
みどりの広場 ほか	04
ふれあいポスト	05
都医からのお知らせ ほか	06
地区医師会長からの一言	08

発行所 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 1部75円



皇居東御苑のツツジ

## 平成31年度 東京都医師会事業計画の策定にあたり

### 子どもから高齢者まで、全世代の都民を医療で支える新たな東京都医師会を目指す

第291回(臨時)代議員会において、平成31年度の事業計画が了承された(代議員会については2面参照)。以下は事業計画の冒頭を抜粋したものである。



公益社団法人東京都医師会 会長 尾崎 治夫

### 子どもの健康と教育への対応

東京都医師会はこれまで疾病予防としてのタバコ対策、介護予防としてのフレイル対策を掲げ、真の健康寿命延伸を目指してきました。医療界の念願であった成育基本法が成立した現在、子どもを安心して産み育てられる東京、学校教育の中でしっかりとヘルスリテラシーを身につけた都民で溢れる東京を目指すなど、従来の医療政策と合わせ、全世代にわたって都民を医療面から支えることができ、新たな東京都医師会を目指します。

### 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

いよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催が翌年に迫ってきました。2018年6月には念願であった東京都での受動喫煙防止条例が制定され、オリンピック・パラリンピック開催年の4月には、飲食店の84%を含む屋内

空間での全面禁煙が実施されることとなります。これにより心臓病、脳卒中、呼吸器疾患の入院患者の減少が期待されます。また、熱中症対策についてもマラソンや競歩をはじめ多くの競技の開始時間の見直しが行われようとしています。いずれも東京都医師会が日本医師会をはじめとする他団体の協力を得て、その実現に深く関与してきました。

本年度も引き続き、オリンピック・パラリンピックに向けたラストマイルの熱中症対策、感染症対策、外国人医療、災害、テロ等のさまざまな対策を東京都、組織委員会、関係する団体とともに築いていきます。

さらにオリンピック・パラリンピックのレガシーとして、子ども、障害者、高齢者を含むすべての都民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて運動不足を解消できるようスポーツ庁をはじめとする関係団体とともにその実現を目指して、2025年に向けたフレイル予防に繋がっていきます。

### 次世代医師の育成や産業保健への取り組み

これまで多くの大学医学部での出張講義を通じて、医学部に医師会活動や地域医療の重要性を理解してもらった努力をしてきましたが、新たに新研修医のオリエンテーション等を開催し、引き続き次世代医師育成に協力するなど、若手医師と医師会の関係がより密になるようにします。

産業保健の中では、禁煙推進企業と協力して、受動喫煙防止条例制定後、増加すると考えられる禁煙希望者に対して、禁煙外来を通じて確実に禁煙してもらえる仕組みを作るとともに、企業内で増え続けるがん患者の両立支援にも力を入れていきます。

### 病院救急車の活用とICTネットワークの構築

東京都全体を結び

ICTネットワークの構築

増え続ける高齢者救急の中で、病院救急車を利用した救急搬送、転送システムは、消防の救急システムを守っていくためにも、これからの東京都にならなければならないシステムと考えています。すでに5区市で活動していますが、いよいよ消防救急車の病院救急車への譲渡がはじまり、さらにシステムの拡大が期待されます。

交通網の発達した東京では、医療圏にかかわらず患者さんの移動がみられます。このため病院間、そして地域との多職種間のネットワーク作りはもちろんなこと、これら東京都全体を結ぶポータルサイトも必要です。2025年に向けた地域医療提供体制と地域包括ケアシステムが有効に機能するためには、このICTネットワークが不可欠です。確実な構築に取り組みしていきます。

平成31年度も、都民の安全安心を守り、東京都の医療をより良くするため、しっかりと事業計画を立てて臨んでいきます。会員各位のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

# 底流

## 医療連携における患者同意は どのように取るべきか

東京総合医療ネットワークでは、「同意書をとる」「同意撤回の説明を行う」「ポスターやホームページで参加医療機関を掲示して黙示の合意を得る」をポリシーとしている。

東京都内にある病院の電子カルテを連携する「東京総合医療ネットワーク」は、会員の方のご支援を受け、昨年11月に8病院間で実運用が開始された。以前から存在する登録型の医療連携システムとは異なり、実際に診療情報提供書を介して紹介・受診もしくは入院という患者移動が行われた場合のみ登録される方

ネットワークを利用して医療情報連携を行う場合の患者同意については、昨年改正が行われた個人情報保護法が細かく規定しており、「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン（平成29年4月14日、厚生労働省個人情報保護委員会）」にも実情に即した記載がなされている。これら

①新規患者からの参加同意  
同意書による取得が最も望ましい。普通の診療の範囲内であれば、診療情報の閲覧は「黙示の同意」として認められる。しかし、例えば地域医療連携の場合であれば、一人の患者の情報開示が可能な地域範囲には、一定の限定が必要である。

②参加同意の撤回（脱退）  
患者の意思を尊重し、同意書、もしくは口頭による撤回（脱退）の意志表明を受け入れ、了承すべきである。一度連携参加に同意しても、いつでも撤回（脱退）表明が可能である旨は、最初の同意取得の際に患者に説明しておく必要がある。かつ同意書にもその旨を明記しておかなければならない。

③連携参加施設が増えた場合の対応  
こうした点を考慮して、東京総合医療ネットワークでは以下のような同意取得をポリシーとして採用している。「新規の場合には同意書をとること、同意撤回の説明を行うこと、ポスターにて参加病院であることを表示し、運営協議会ホームページに参加施設を掲示して黙示の合意を得る。」

医療ネットワークは今後さらに拡大し、日常診療にあたりまのように入り込まれていくべきものである。あまり肩肘張らず、必要ときに必要な情報だけ取り出し、患者の安全かつ円滑な診療に結びつけられることが望ましい。（目々澤肇）

## 東京都医師会 第291回（臨時）代議員会

東京都医師会（臨時）代議員会が3月28日（木）東京都医師会館で開催された。

### 会長挨拶

尾崎治夫会長は、全世代にわたって都民を医療面から支える新たな東京都医師会を目指す」と強調した。従来の医療



議長進行を行う真鍋議長

化対策に取り組むとした。また東京オリンピック・パラリンピックに向けた熱中症対策、感染症対策、外国人医療、災害アロ

策策などに引き続くために重要な役割を担って

政策である、健康寿命延伸を目的とした疾病予防としてのタバコ対策、介護予防としてのフレイル対策に加え、成育基本法の成立により子どもを安心して産み育てられる環境づくり、ヘルスリテラシーを育む学校教育の実施など少子

角田徹副会長から「平成31年度東京都医師会事業計画」、島崎美奈子理事より「平成31年度東京都医師会収支予算」の報告があり、賛成過半数で

### 報告

第1号議案「平成30年度東京都医師会会費減免申請に関する件」および第2号議案「平成31年度東京都医師会会費賦課徴収に関する件」に関して

### 議事

第1号議案「平成30年度東京都医師会会費減免申請に関する件」および第2号議案「平成31年度東京都医師会会費賦課徴収に関する件」に関して



日医代議員選出の様子

## 地区医師会長 連絡協議会報告

平成31年3月15日（金）

### ◎都医からの伝達事項 （1）風しんの追加的対策に係る対応について

本対策に係る「医療機関・健診機関向け手引き」が作成された。集合契約にあたり、委任状のとりまとめや実施機

（4）平成31年度実施予定事業（認知症検診推進事業）の周知について  
東京都では、認知症に関する正しい知識の普及啓発を進めるとともに、認知症検診を推進することにより、認知症の早期診断・対応を促進することを目的として、平成31年度から標記事業の実施を予定している。区市町村が地区医師会の協力を得て実施することとなるため、協力を願います。

（5）東京都多職種連携連絡会「住み慣れた街でいつまで

# 平成30年度 東京都大学医師会連絡協議会 働き方改革に対する大学の取り組みについて、都内13大学医学部が協議



平成30年度東京都大学医師会連絡協議会が、2月13日(水)に都内のホテルで開催された。今回は慶應医師会が主催となり、東京都医師会所属の12大学医師会と、三鷹市医師会所属の杏林大学を含め都内13の全大学医学部が参集した。

議題は「働き方改革に対する大学の取り組み」で、小川都慶應医師会長の座長の下、各大学医師会からそれぞれ7分程度の講演が行われた。医師の実際の勤務時間を把握するために在院時間を表すデータアプリを使う、予定手術前の当直の免除、複数主治医制度、外来患者数の適正化、事務作業を補助するドクターズクラブ(高度医療事務職)の創設と増員、特に女性医師支援を目的とする院内保育園の常設や短時間・時差出勤などのタスクシフト、変形労働時間制の導入、当直業務のオンコール体制、職員の労働生産性を点検化してタスクシフトを進める等、また実験段階・実証中の試みも含めさまざまな意見・対応も盛り込まれた。

策が披露された。いずれにしても医療界の働き方改革は人員の確保と収益性の維持という高いハードルを越えなければならず、今後も各施策のアウトカムを見守る必要がある。

次に東京都医師会から2題の講演が行われた。まず新井悟理事から「働き方改革を視野に入れた医師偏在の是正計画について」という今年度の東京都医師会病院委員会中間答申の概要が発表され、続いて目々澤理事から4月に初めて開催される「東京都新研修医ウェルカム・オリエンテーション」に関する周知の説明が行われた。

講演終了後は懇親会に場を移し、各テーブルで意義深い意見交換が活発に行われ、時間の過ぎるのも忘れるほど盛り上がり会は終了した。

## 中央ブロッック 医師会広報担当 理事連絡会



挨拶をする天木理事

2月21日(木)、中央ブロッック医師会広報担当理事連絡会が開催された。今回の当番医師会は中央区医師会であった。はじめに、遠藤文夫中央区医師会長より「都民に医師会活動をお伝えすることが重要な広報活動である。中央ブロッックが集まって意見交換を行い、今後の広報活動の参考にしていくことは有意義である。また、中央ブロッック会長で年一回全役員が集まり、話し合いを行う試案がある」と挨拶があった。

続いて天木理事から「本年度は広告やポスター等に東京都医師会のイメージである江戸紫を使用し、都民の方々の印象に残るようにしたい。今後は広報に必ず江戸紫を入れ、東京都医師会のイメージを強く伝えていきたい」と来賓挨拶があった。

広報活動の現状については、進士雄二東京都医師会広報委員会委員長より「対外広報として『元気がいね』、会員向けとして『都医雑誌』『都医ニュース』を発行している。都民向けイベントとして『キッズホスピタリティランド』『フレイル予防をテーマに『都民公開講座』を開催した。マスコミ向けには記者会見を開催している。『元気がいね』では最近がん治療の連載を開始した。また、広報誌のIT化を進めている」と報告があった。その後、各医師会より広報活動についての報告があった。

今回は、新しい広報活動の試みについての報告はなかったが、区民への広報活動、会員への情報提供に各医師会独自の工夫が見られた。特に、文京区地域医療連携情報誌「かかりつけマップ」に音声メディアのDAISYをつつけ、視覚障害者も使いやすい情報誌にしているという紹介が強い印象を残した。

最後に、次期当番医師会の山本信明浅草医師会理事から来期についての挨拶があり、閉会となった。

も「自分らしく暮らせるまち東京」について  
東京都多職種連携連絡会では、ACPに関連した内容で平成31年度の都民普及啓発冊子を作成した。4月上旬に地区医師会にA会員数相当分を配布するので、活用願いたい。

⑥ 医療機関対象「平成30年度医療廃棄物適正処理研修会」について  
本会、東京都環境局、東京都産業廃棄物協会では、医療廃棄物の適正処理に係る一層の周知徹底を図ることを目的として標記研修会を開催しており、今年度は2月23日(土)に東京都庁都民ホールにて開催した。

⑦ 地区医師会からの報告  
(1) 中央ブロッック  
① 地域医療を考える講演と意見交換会について  
(2) 城西ブロッック  
① 若年者に対するピロリ菌除菌の実現に向けての検討委員会設置について  
(目黒区医師会)  
② 学術講演集 電子版について  
(中野区医師会)  
③ 武見敬三参議院議員との政策懇談会について  
(中野区医師会)  
(3) 城南ブロッック  
① 第3回しながわ・えぼら医学会報告について  
(品川区医師会)  
(4) 城北ブロッック  
① 明日の地域医療を考える講演会について(豊島区医師会)  
(5) 多摩ブロッック  
① 第16回武蔵野市地域医療連携フォーラムについて  
(武蔵野市医師会)

② 地域医療を考える講演と意見交換会について  
(三鷹市医師会)  
③ 地域医療を考える勉強会と意見交換会について  
(町田市医師会)  
④ 東久留米市におけるCOPD検診について(平成30年度)  
(東久留米市医師会)  
⑤ 活力ある健康長寿フォーラムについて  
(東久留米市医師会)  
⑥ 日野市と日野市医師会との地域包括的連携協力の協定について  
(日野市医師会)  
◎その他  
(1)「本庶先生のノーベル賞受賞後記者会見でのHPVワクチンに関する大手マスコミへの諫言」について  
(町田市医師会)  
(2) 第144回日本医師会臨時代議員会における代表質問について  
3月31日(日)に開催される第144回日本医師会臨時代議員会において、鳥居明理事が「麻疹発生の予防・まん延の防止対策」、新井悟理事が「東京都における地域医療構想と医師確保計画・医師偏在是正計画の整合性」について代表質問を行う。

## 第2期「東京在宅医療塾」

# 第5回 神経難病・小児・認知症等 精神科の在宅医療

各領域の専門医である講師陣からは、非専門医がかかりつけ医として在宅医療で支える意義と、専門医と連携しながら疾患と向き合う上で必要な知識が伝えられた。

最新の見地のもと具体的に示した。

小児在宅医療  
大谷俊樹(かみさきキッズクリニック院長)  
診療の実際を伝えることも



講演する荻野氏

第2期「東京在宅医療塾」の第5回「神経難病・小児・認知症等精神科の在宅医療」が2月9日(土)、東京都医師会館において開催された。

神経難病の在宅医療  
荻野美恵子(国際医療福祉大学教授)  
医療処置・管理から意思決定支援・看取りまで、在宅医が直面する問題への対応を、



講演する大谷氏

型や対応について、社会情勢や行政施策・地域の社会資源の把握を研究結果や動画を交えながら解説した。

診療報酬事例説明  
太田雅也(世田谷ホームケアクリニック院長)  
筋萎縮性側索硬化症の症例のもと、必要な対応や書類、診療報酬算定方法を医療機関形態ごとに整理した。

講義のテキストおよび映像は本会ホームページにおいて公開している。閲覧には会員専用のID、パスワードが必要となる。不明な場合は所属の地区医師会へ問い合わせ願いたい。

③ 第2期第6回東京在宅医療塾について  
3月9日(土)に第6回東京在宅医療塾が開催された。今回は、生活期リハビリ・病診連携・ICTの活用について取り上げた。当日のテキストと動画は本会ホームページで公開しているので活用願いたい。なお、閲覧には会員用のIDとパスワードが必要となる。

# 133 みどりの広場

## 東京内科医会

内科を標榜している  
全ての医師のための会

東京内科医会会長 菅原正弘



東京内科医会の目標は大きく3つあります。内科学本後研修の強化、臨床内科のあり方の改善、内科系診療報酬の向上です。

独自のスタイルで実施しているのが「臨床研究会」です。これは、都内13大学の附属病

院などの大病院を1施設ずつローテーションして、各施設で症例検討や関連疾患のレクチャーを受けるといった企画です。

病院見学も実施します。国立国際医療研究センターでは感染症室、東京医科大学

医学部附属病院では高圧治療室、帝京大学医学部附属病院では救急治療室、東京都健康長寿医療センターでは癒しを取り入れた緩和病棟、順天堂

大学では先進的な「難病の診断と治療研究センター」が印象的でした。

学術講演会は製薬企業と共催で行うことが多いのですが、最近上市された新薬、注目される疾患などタイムリーなテーマで開催しています。

また、特別なテーマを決めた大型セミナーを、毎年2月に丸1日かけて実施します。

本年2月は「感染症」がテーマでした。毎回150名程度の医師が参加しています。また、超音波診断装置の研修会も好評です。リーズナブルな参加費で、コメディカルも参加可能です。

都民対象の市民セミナーも

今年1回開催しています。「生活習慣病」「認知症」「がん検診」といった市民の関心が高いテーマで実施します。

毎年3月に行われる東京内科医会では、特別講演と一般会員発表で構成されます。実地医家が日常臨床のなかで取り組んだ研究発表ですから、とても参考になります。会誌では「地域包括ケアと東京」など会員の関心が高いテーマの特集も組まれます。臨床内科医に必須の医療、介護に関する情報も随時提供しています。

東京内科医会は一般社団法人に移行しましたが、具体的な狙いの1つは調査研究活動の活性化です。インスリン製剤、尿酸降下薬、SGLT2阻害薬等で臨床研究を実施しました。現在は、家庭血圧計による不整脈の検出について検討しています。

未加入の先生方にはぜひ、入会をお考えいただきたいと思っています。私共の会で内科医として成長させていたいただき、内科を標榜していただき、あるいは標榜する可能性のあるすべての実地医家の先生方に自信を持って勧めたいと思います。

最近、理事会のメンバーも若返り、非常に活発に意見が交換されるようになりました。女性医師の理事も増え、女性医師に関連した企画も充実してきました。

第30回日本臨床内科医学会主催時の役員



### 虎ノ門3206

魅惑のサンドウィッチがずらり

### 趣味の散歩



日比谷線神谷町駅から三田線御成門駅に向かう途中、愛宕グリーンヒルズの坂の手にその店はある。「虎ノ門3206」、プロのためにプロが作るお菓子とパンの店である。店名の3206は、創業時のパン工房の住所「虎ノ門3丁目20番6」が由来となっている。「プロのためのプロの店」

「虎ノ門3206」の名物といえば「デビルドエッグサンド」である。柔らかい食パンに挟まれた半熟卵とたっぷりの卵サラダ、新鮮なマヨネーズ。その名の通り悪魔のようなサンドウィッチなのだ。コレステロールがなんだ。美味しければ良いじゃないか。そう言わしめる一品である。

他にもアボカドツナサンドやローストビーフサンド、サーモンカツサンドなどがあり、どのサンドウィッチも断面5センチは軽く超えるボリューム。「食事パンに挟む」というコンセプトに恥じない面々である。

一番のお勧めは？自家製ベーグルにこれでもかとクリームチーズを挟んだ「クリームチーズサンド」を推薦しよう。たかがクリームチーズサンドと侮るなかれ、チーズの量に圧倒されるはず。お近くにお越しの際は、ぜひ訪れていただきたい。

虎ノ門 3206  
東京都虎ノ門3-20-4  
クレジデンス神谷町 1F  
☎ 03-6435-7933

## 知っていますか?

### 子ども家庭支援センター

区市町村における地域住民の最も身近な窓口として子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、関係機関と連携をとりながら支援を行う中核機関である。ショートステイや一時預かり、育児支援ヘルパーなどの在宅サービス提供も行っている。

さらに児童虐待の早期発見、未然防止を図ることが求められており、虐待家庭等に対する見守り、養育支援を目的とする訪問といった要支援家庭サポート事業も行っている。しかし、児童相談所のような立ち入り調査や一時保護などの強制力のある権限は有していない。

## 月～金 毎朝 6:15～ ニッポン放送

### 『モーニングライフUP！ 今日早起きドクター』



4月から、ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で『モーニングライフUP！ 今日早起きドクター』のコーナーが始まりました。

毎朝5分程度、東京都医師会が協力して健康をテーマに生活に役立つ健康情報をお届けしています。

聴き逃した方はパソコンやスマホで過去1週間以内に放送された番組を聴くことができます。

パソコンで聴くには  
www.1242.comにアクセス

スマホで聴くには  
無料アプリ「radiko (ラジコ)」をダウンロード



## 第30回 日本臨床内科医学会

真の健康長寿社会を目指して、今、実地内科医がすべきこと



第30回日本臨床内科医学会主催時の役員

# 心れあいポスト



各地区会報から



板橋区医師会

花田伸英

## 亥年生まれからひと言

小豆沢でクリニックを開業して15年目になります。昭和34年2月生まれ、お陰様で今年60歳を迎えることになりました。家内からプレゼントされた、お決まりの真っ赤なチャンチャンコを着て、家族や大学の同級生と還暦のお祝いも無事にすませました。

先日、車で神宮外苑を通った際に、建て替え工事中の巨大なオリンピックスタジアムを見て、5歳の時に自宅の2階から青空に浮かんだ五輪の輪を見た東京オリンピックがあと1年後に、そして、11歳の時に3時間並んで月の石を見て興奮した大阪万博があと6年後に開催されようとしていることを思い出しました。

お若い先生方にはピンと来ない昔話かも知れませんが、まさか自分が生きている間にこの2大イベントが再度催されることになるとは思ってもいませんでした。

先日、「もう一度、家族と東京オリンピックが見たかった」という言葉

を残して幼馴染みががんで他界しました。諸先輩先生方には叱られてしまいそうですが、最近は年齢を感じることはばかりで「60歳、こんなもんかな?」と思っておりましたが、こうなったら何としても、亡き親友の分もぜひこの2大イベントは眼に焼き付けておこうと気合を入れ直したところです。

そう遠くない将来、民間機で月への宇宙旅行ができる時代も来るようです。私が幾つのか実現するのか分かりませんが、さすがに最近テレビで話題の大富豪ではないので、夫婦で200億円の旅費は払えそうもありません。その時は、8Kテレビを購入し、ビールを飲みながら中継を見て行った気になりたいと思います。

(板橋区医師会通報 No.498から抜粋)



登り龍

練馬区医師会 大野邦彦

2015年11月3日、晴天の下で開催された入間基地航空祭。数々のアクロバット飛行を披露するブルーインパルス、そのうちの一つ、単機による課目で最後に回転しながら上昇を続けます。青空に綺麗に残ったスモークの航跡の形状がまるで天に向かって登って行く龍のようでした。



スカイツリー日本国旗バージョン

武蔵野市医師会 服部和幸

大晦日の夜、日本国旗をイメージした紅白のライティングに姿を変えたスカイツリー。2019年を迎える2018年12月31日(月) 23:50～2019年1月1日(火・祝) 6:00まで点灯しました。

# 無 声 拜 聴

## 医は仁術

近年の医療技術進歩は目覚ましく、遺伝子治療、iPS細胞による治療、さらにはAIを活用した医療も考えられるようになってきた。また、超高齢化に伴い高齢者の末期治療の重要性も増している。このような時代であるからこそ、医の倫理を改めて考えることが重要であると思う。

「医は仁術」という言葉は、医の倫理を考えるとき、だれもが思い浮かべる。江戸時代の儒学者貝原益軒の「養生訓」にある「医は仁術なり。仁愛の心を本とし、人を救ふを以て志とすべし。…」として有名であるが、その語源は中国明代の書物よりの引用のようである。

「医は仁術」の「仁」は、儒教で説く五常(仁・義・礼・智・信)の徳目の一つである。これらの徳目で医療を考えた「仁」とは正しい行いを守ることであり、利欲にはとらわれず、患者の治療に情熱をもって最善をつくす。「礼」とは自分を律し患者に敬意をもって接すること、見識をもってはっきり意見がいえる意味もある。「智」とは人や物事を正しく判断する知恵であり、智を高めるために専門知識・人間学・診療技術を学び続けることが大切である。「信」とは心と言葉が一致し嘘がないことで得られる信頼であり、患者との信頼関係を築かないと良い診療はできない。「仁」とは人を思いやることであるが、「義・礼・智・信」の徳を守り、真心と思いをやりを持って誠実に患者に接することが仁を行う診療である。

医療が日に日に進歩していく近年こそ、「医は仁術」は決して忘れてはいけない言葉であると思う。

(佐野信昭)

## 目の感染症で注意すべきこと

目の感染症のうち、ウイルス性で伝染力が強い急性結膜炎には流行性角結膜炎と急性出血性結膜炎がある。流行性角結膜炎は「はやり目」とも呼ばれ、7~14日間の潜伏期の後に発症する。眼脂、結膜充血、流涙、眼瞼腫脹、異物感、耳前リンパ節の腫脹などが出現し、14日間位で治癒する。

急性出血性結膜炎は1~2日間の潜伏期の後に発症する。結膜下出血、結膜充血、眼脂、異物感などが出現し、7日間位で治癒する。両疾患ともにウイルスによる感染症のため、有効な点眼薬はない。補助的に、他の感染が起これないように抗菌点眼薬や、炎症を抑えるためにステロイド点眼薬を使用する。治りかけの頃に角膜に小さな点状の濁りが出ることもある。このときに点眼薬治療を中断すると、濁りが残り、視力が低下してしまうことがあるので、医師の指示に従い、点眼薬の治療を続ける必要がある。

ウイルス性結膜炎を発症した場合は、他人あるいは感染した目からもう片方の目にうつさないようにしなければならない。患者のタオル、洗面用具は家族のものとは別に。タオル、ハンカチ、下着などはできるだけ煮沸し、乾燥させる。点眼に使用したり、涙や目やになどを拭いたティッシュペーパーはビニール袋に入れて、まとめて捨てる。手で目をこすったり、顔にふれないようにする。保育園、学校、職場は医師の許可があるまで休む。

また予防も大切である。手を流水や石けんでよく洗う習慣を身につける。人混みへ出かけない。汚れた手で目をこすらない。休養をとって体力を落とさない。各人が予防に努め、感染が起きた場合は、感染を拡大させないように指導することが最重要である。

(文責：井上賢治)

# 感 染 症 豆 知 識

東京都医師会  
感染症予防検討委員会

## 都医からのお知らせ

# INFORMATION

### 第439回 国際治療談話会例会「発達障害を学ぶ」

問合先

(公財)日本国際医学協会 事務局  
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599  
E-mail: admin@imsj.or.jp URL: http://www.imsj.or.jp/

**日時**▶ 5月16日(木) 18時~20時  
**会場**▶ 学士会館2階 202号室 TEL: 03-3292-5936  
**開会挨拶**▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)  
**司会**▶ 市橋 光((公財)日本国際医学協会 理事)  
**(第1部)講演**▶ ①「自閉スペクトラム症—最近の定義と対応—」古荘純一(青山学院大学教育人間科学部教育学科 教授) ②「小児ADHDの治療」作田亮一(獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター 教授)  
**(第2部)感想**▶ 「組織の心理的安全性に活かす『ビジネスコーチング』とは?」上西正之(株式会社リーダーシップコミュニケーションジャパン 代表取締役会長)、上西英理子(同社 代表取締役社長)  
**会費**▶ 会員5,000円、非会員7,000円、学生2,000円  
**取得単位**▶ 日医生涯教育制度1単位取得予定(カリキュラムコード5、72)、(公財)日本薬剤師研修センター認定薬剤師制度1単位

## 医師国保からのお知らせ

### 平成31年4月からの保険料について ~今年度、保険料の改定はありません~

	医療保険料(月額)		介護納付金 保険料 (月額)	後期高齢者 組合員保険料 (月額)
	医療給付費 保険料	後期高齢者 支援金等保険料		
第1種	27,500円	5,000円	5,500円	—
第2種	13,500円	5,000円	5,500円	—
家 族	7,500円	5,000円	5,500円	—
第3種	—	—	—	1,000円
第4種	—	—	—	1,000円

※介護保険料は、40歳以上65歳未満の方が該当します。  
※後期高齢者組合員保険料は、第3種・第4種組合員(75歳以上)の方が該当します。

ぜひ、ご家族や常勤の従業員の方と一緒に、医師国保組合に加入してください。  
[www.tokyo-ishikokuho.or.jp](http://www.tokyo-ishikokuho.or.jp)

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

# 日本医師会生涯教育講座

日時 令和元年5月9日(木)  
午後2時～5時  
場所 東京都医師会館 2階講堂  
(千代田区神田駿河台2-5)  
TEL:03-3294-8821(代表)

日本医師会生涯教育制度 合計2単位  
カリキュラムコード 12、32、73、78  
日本内科学会認定総合内科専門医更新単位 2単位

## 脳梗塞…診断と治療の最前線

座長 東京都医師会理事

落合和彦

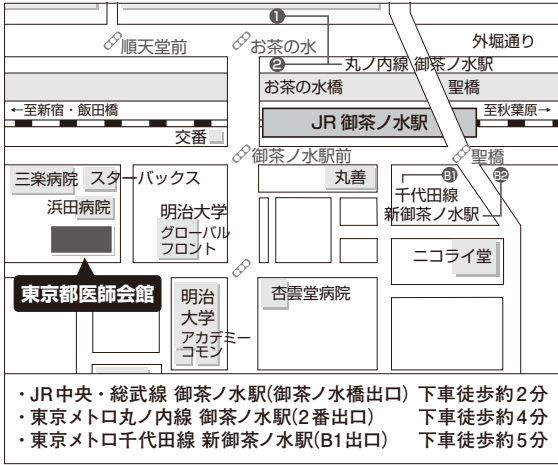
日本医科大学大学院医学研究科  
神経内科学分野 大学院教授

木村和美先生

東京女子医科大学脳神経内科学  
教授・講座主任

北川一夫先生

東京都医師会  
共催 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社



### 脳卒中診療 Up-To-Date

—再発予防〜慢性期治療まで—

北川一夫先生

この10年で脳梗塞急性期治療は大きく変わった。t-PA静注療法と血管内治療である。両者の登場により患者の転帰は大きく変わり、治せる時代に変貌しつつある。特に血管内治療により、これまでなら亡くなっていったと思われる人が、歩いて退院することも経験する。

また、血管内治療を行っても半数以上の患者に何らかの後遺症が残る。この後遺症の軽減のために最近始まった細胞治療についても紹介する。

### 変貌する脳卒中診療と医療体制

〜脳卒中・循環器病対策基本法と脳卒中センター認定制度〜

木村和美先生

脳卒中再発予防の3本柱は、脳梗塞に対する抗血栓療法、内科的リスク管理、生活習慣改善である。脳梗塞に対する抗血栓療法は病型により異なり、心原性脳梗塞では抗凝固薬、非心原性脳梗塞では抗血小板薬が第一選択薬になる。

抗凝固薬にはワルファリンと新規経口抗凝固薬(DOAC)があり、ワルファリンと同等以上の血栓予防効果を有し脳出血リスクの少ないDOACが選択されることが多い。DOACの中では中和剤を有するのは

ダビガトランだけであり、重篤な出血合併症、緊急手術時の対応に優れていると考えられる。

非心原性脳梗塞では急性期にはアスピリンとクロピドグレルの2剤併用が推奨されるが、慢性期にはいずれかの抗血小板薬1剤もしくはシロスタゾールを含む2剤併用療法が望ましいと考えられる。

内科的リスク管理では高血圧管理が最も重要であり、130/80mmHg未満を目指して管理することが望ましい。

医師と医師会を結ぶ 情報紙

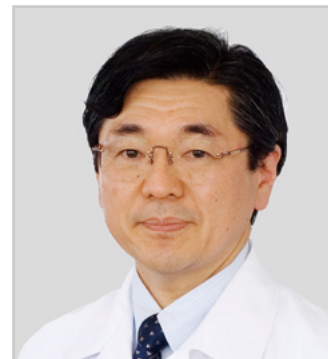
都医<sup>ニュース</sup>NEWS

2019

Vol.  
638

## 地区医師会長からの一言 大学医師会の役割？

日本大学医師会長 武井正美



今年で丁度創立130周年を迎える日本大学では、医学部が大正14年に設立され、日本大学医師会が昭和33年10月に設置されました。附属病院としては、板橋区にある医学部附属板橋病院と御茶ノ水の大学本部附属日本大学病院があり、学部教育機関は板橋区に集約されております。現在、本会会員数は800人を超え、そのうち東京都医師会正会員は約130人で東京都医師会代議員が1名おります。

私は前任の増田英樹前会長から、平成30年5月より第16代日本大学医師会長を拝命しております。準備期間もなく就任したため、大学医師会の在り方を1日も早く体得することが必須と思い、就任してこれまで時間の許す限り医師会の集まりに参加して参りました。その中で、多くの会員の方々とは知己を得て、さまざまな情報を得ることができました。医師会が日本の医療、患者様に対し献身的に仕事をしていることを、今さらながら身近に感じることができました。

各大学医師会は、日本医師会、東京都医師会とともに、共通の目的のもとに事業を行っております。東京都にある13医科大学のうち、12大学に医師会が設置されており、全国では56の大学に設置されております。東京は医科系大学が集中しており、約6分の1を占めていることとなります。

本会は、会員の福祉と日常診療の向上により、国民の健康および福祉の増進がさらに発展できるように努力することが目的となっております。具体的な事業としては①毎年3月頃行っております産業医講習会、申請手続き ②健康スポーツ医の講習会の情

報提供、申請手続き ③近隣住民の方々への市民公開講座や近隣の先生方への夏季医学講座 ④各学系分野で行う研究会等の共催や講演料の支援 ⑤医師国保の加入、継続手続き ⑥医師会からの学術奨励賞の授与 ⑦災害時や就職時に医師であることを証明する医師資格証の発行の支援 ⑧臨床実習指導医講習会への支援 ⑨学部高学年学生のマッチングや研修医の支援 ⑩診療報酬に関わる情報の提供などがあります。

医師の偏在が社会問題となり新しい専門医制度が始まり、東京においては研修医の定員が各大学で決められ、働き方改革の波が大学病院にも影響を及ぼしています。当直体制の見直し、高度医療にかかる医療費の高騰、兼任講師などの無給での診療協力の廃止、超過勤務による人件費の高騰など、高度医療を担当する大学病院の国民への医療の供給が大きく見直されてきていることを日々の診療で実感しています。厚生労働省指導官は、保険医療と医療は違うものであることを明確に指摘しています。大学医師会会員の多くは、所属する大学病院の勤務医であり、専任教職員と研修医、専修医と勤務条件の違う医師の集まりでもあります。就業条件の違う医師の集まりの中で、大学医師会が会員の皆様に必要な組織になることを日々願っております。

新たな元号が配される時代が参ります。気持ちを新たに、日本大学医師会の役割を果たすべく、これまでの伝統を踏まえ新規の事業にも取り組み、具体化していきたいと決意しております。

日本医師会、東京都医師会、大学医師会の会員の皆様の引き続きのご支援、ご指導を宜しくお願い申し上げます。